

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年10月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4071500922		
法人名	医療法人 今野病院		
事業所名	グループホーム青葉		
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市青葉町12-11		(電話) 0944-55-0777
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成19年9月22日		

【情報提供票より】(平成19年8月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算	12.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>(単独)</u>	新築/改築	
建物構造	木造		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000/33,000 円	その他の経費	有
敷金	有(円)	<u>(無)</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,250	円

(4) 利用者の概要(平成19年8月28日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今野病院 静光園第二病院 おおの歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大通りより一步入り込んだ静かなところに、母体とする病院に隣接してホームがある。敷地内では病院の職員が行き来し、日常的にあいさつが交わされている。敷地内には小さいながらも畑があり、季節の野菜を作り、利用者の楽しみや語らいの場所となっている。敷地内に病院があることから、何かあれば医師やスタッフの早い対応ができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をもとに、ミーティング時に話し合い、できることから取り組み改善につないでいる。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は日々取り組まれているケアの振り返りにもなるので、全職員が自己評価の意味や内容を理解し、より良いホームとなるよう積極的に取り組まれていることが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、前回の外部評価の結果や他のホームの結果などをもとに、できていないと評価されたことに対して会議のメンバーから意見をもらう等して、改善方法を検討したり、良いホームづくりができるように取り組んでいる。
②	運営推進会議の必要性を理解し、さらに今後の取り組みに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	面会時にできるだけ話を聞く等の対応を行っているが、職員の入れ替わりも多いということから、家族は話にくい雰囲気になることも考えられる。また家族は預かっていたという思いから、直接苦情などは言いにくいものであるとの認識を持ち、意見箱の設置や話しやすい雰囲気作りが必要である。
③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	道路拡張等により地域住民が転居したため、近隣住民が少なくなったが、ようやく外出などの機会を増やして交流を持ち始めているところである。今後は、ホーム側から積極的に出向き、その地域の一員となるような取り組みを期待したい。
	④

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直して、「地域とのふれあいを大切にしながらその人らしくゆったりたのしく」という理念に変更して、地域との関係づくりができるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関先と事務室に掲示されている。朝のミーティングの際に毎日唱和し、理念に基づいたサービスの提供に心掛けている。9月にはお祭り行事の参加報告と合わせて理念も一緒に載せた青葉たよりを発行する予定である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の住民が少ない環境であり、民生委員や公民館長などに協力を得ながら今年の夏祭りに参加することができた。	○	地域の行事や活動などに積極的に参加できる機会を積極的に見つけ、地域との交流を図ることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果をもとに、ミーティング時に話し合い、できることから取り組み改善につないでいる。今回、自己評価をするにあたり一部の職員にその意義を話して取り組まれている。	○	自己評価は日々取り組まれているケアの振り返りにもなるので、全職員で取り組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は老人会会長、民生委員、利用者、家族の参加者で開催し、外部評価の改善項目を説明したり、他のホームの評価と比べ何が出来ていないのかなどを話し合い、改善に役立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしん介護相談員の受け入れを行い、意見交換会に参加している。	○	市町村担当者に、事業所の考え方・運営や現場の実情などを積極的に伝える機会をつくり、質の向上に繋がるような関係づくりを取組まれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内や法人全体の研修で学ぶ機会を持ち、家族などにも情報提供している。実際、ホームの入居者に成年後見制度を利用している方もいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、日々の暮らしぶりや健康状態などを報告し、面会が少ない家族には電話などで近況報告を行っている。この度、「青葉だより」初刊を家族に配布して、ホームでの生活を知らせている。金銭管理についても家族に報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	あんしん介護相談員の受け入れを行い、入居者の家族と馴染みの関係の中で相談にのって頂いている。また、面会時に意見や苦情などを聞くようにしているが、発言はない。	○	家族は、預かってもらっているという思いから苦情などは、なかなか言い出しにくい。意見や苦情は、貴重な宝物と考え、意見が言いやすい雰囲気づくりの工夫が望まれる。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりが多く、馴染みの関係づくりができていないとはいえない。	○	職員の馴染みの関係は利用者の日常生活に大きな影響を与えるので、そのためにも職員の離職等を最小限に抑えることが望まれる。また、職員が離職せず働きやすい職場づくりの工夫も望まれる。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって、年齢や性別の制限などは設けず管理者も一緒に面接をして採用している。職員の入れ替わりがあり、一人ひとりの能力が十分に発揮できているとまでは言えないが、いつでも意見を言えるような環境づくりに努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体の人権研修にホームの職員も参加している。一人ひとりの人格を尊重し、その人にあつた言葉かけや対応を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回づつ、ユニット合同での勉強会を行っている。働く中でその都度指導しているが、職員の離職も多く計画的な育成や研修などができていない。	○	職員の質の確保や向上に向けた取り組みが不可欠である。職員一律だけでなく、ケアに支障をきたさないように段階に応じた職員の研修を計画的にすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しているが、職員による同業者との交流や活動などはできていない。	○	同業者との相互訪問や研修会等を行ったりして、サービスの質の向上に取り組まれることが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の5割程度は、入院中に入居希望があり、入居に至るまで数回面接をして職員と顔なじみになっている。その他の利用者は、面談をした職員が常に側にいたり、他の入居者との間を取り持ってホームの雰囲気に馴染めるようにしている。ホームに慣れるまでは、家族にも訪問していただくように働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員と共有し、例えば針仕事得意な方・折り紙が上手な方等得意としていることを利用者から積極的に学んだりして、お互いに支えあう関係づくりを築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時やその他、日々の関わりの中で、ちょっとした会話の中から利用者の思いを受けとめ、それを個人の記録や申し送り簿に記入し、職員一同で共有している。家族の訪問時にも会話を重ね、利用者の思いをくみ取るように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスに家族も入ることがあるが、多くはホームで作成して、家族の意見を聞いている。ホームで作成するにあたり、家族面談時に希望などを聞き取ったことや利用者との日々の関わりの中での何気ない会話の中から把握したことや、職員の意見を聞いて介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月に1回の見直しを行うが、骨折などで状態が変わった場合は、その都度見直しをしている。本人の気持ちは勿論、家族・関係職種からも意見を求め記録に残し、現状に合った新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、安心して生活を送ってもらえるように支援している。母体である病院に受診希望の科がない場合にはすぐに他の専門病院を紹介してもらい、連れて行っていき、家族に電話で報告をしている。		
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続している利用者もいるが、多くは協力医に変わっている。その際、家族に説明を行い、了承を得ている。事業所の協力医の他、受診が困難な場合は往診をしてもらっている。複数の専門医療機関と協力をし、本人・家族からは安心してもらっている。申し送り簿にも記入している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までは重度になると、隣の病院へ入院しているので終末までの対応をした利用者はいない。重度化した場合や終末期のあり方については、家族の訪問時、その場その場で話し合っているが記録としては残していない。母体である病院ともまだきちんとしたと決めはしていない。	○	家族・職員・関係機関と看取りについての話し合いを行い、ホームとしての方針について話し合うことが望まれる。
。 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁時は周囲の入居者にわからないようにさりげなくケアをし、本人が傷つかないように職員一同心がけている。記録等については、所定の場所に置き、管理している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、朝食をとらずゆっくり朝寝をしたい人は寝てもらい強制はしていない。外出や散歩の希望があれば、時間を調整し対応している。畑をたがやす人もおり、ひとり一人の希望にそった支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた野菜を調理したり、おやつのにひと品を工夫している。テーブルを拭き、盛り付け、食後の片付け等、自分たちで行ったり、職員と一緒にやっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員数の関係で週3回入浴日とし、日中の入浴となっている。強制はしていないが入浴拒否の利用者はスタッフが工夫して声かけを行い、洗身介助時に会話をして入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	針仕事得意な人、折り紙が上手な人、畑仕事得意で野菜作りができる人等、それぞれ得意とするものの役割を持ってもらい、職員一同感謝の言葉を利用者伝えていく。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝食後、一息つく頃に外出したい人、様子を見て何か違うなど感じる人には散歩に誘っている。週1回程度の買物支援を行っている		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。利用者がソワソワとした様子をした時はさりげなく側にいたり、外出しそうになった時一緒について敷地周辺をひと回りして帰ってくる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年1回、職員と消防署員のみで防災訓練を行った。地域の方の協力を運営推進会議等と通じて呼びかけてはいるが、協力までには至っていない。	○	利用者も共に訓練に参加してもらい、日頃よりいざという時に役にたつよう取り組まれることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝夕食は栄養士がいる母体の病院でつくり、糖尿食なども提供されている。摂取状況は毎日チェックしている。日々の水分量は記録していないが、概ね把握している。水分が不足がちな利用者には特に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の照明に配慮したり、季節の花をテーブルに飾ったり、折り紙の得意な方からもみじなどを折ってもらって飾ったり、季節感を大事にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>仏壇を置いたり孫からの手紙を利用者がいつでも見れるようにと配置したり、ゆっくり一人過ごしながらテレビを見たりと自分のペースでくつろげるようにと配慮している。</p>		